

# 明日への扉

No.12



## 森崎 由理江さん

平成3年熊本県八代市生まれ。8歳の時に柔道を始め、平成21年に鹿屋体育大学に進学し、大学院1年の時に講道館杯全日本柔道体重別選手権大会女子48kg級で優勝。また今年8月に行われた全日本実業柔道個人選手権大会でも優勝に輝く。(24歳)

## 持ち前の負けん気で世界の頂点を目指す



柔道を始めた時から身体が小さかったため、小柄な選手でも大きい相手を投げることに適した背負い投げが得意技。8月の全日本実業柔道個人選手権大会の準決勝でも「一本背負い」で一本勝ちした。

私は熊本県八代市に生まれ、兄弟の影響で8歳から柔道を始めました。始めた頃は負けてばかりで、その悔しさからもっと強くなりた

いと練習に明け暮れていました。地元の中学校を卒業後、親元を

離れ柔道の強豪校である宮崎日大高校に進学。入学後はなかなか全

国大会で結果を残すことができず

にいましたが、3年生の時のインターハイで初めて3位になりました。優勝を狙っていたため3位と

いう結果に悔しさも感じた反面、自分が確実に成長していると実感

することができました。

高校卒業後は、教員を目指していたことと、高校の先生の勧め

もあり鹿屋体育大学に進学。そこで私の柔道人生に大きな変化をも

たらす人物と出会いました。それが現在も指導していただいている

小山田和行監督です。監督に「相手の弱点をつく」というスタイルを

一から作り上げて頂き、それをも

のにするため練習を重ねました。そして大学院1年生の時によう

やくその努力が報われる時が訪れます。国内のビッグタイトルの一つ

である講道館杯全日本柔道体重別選手権大会決勝で、過去に2度対

戦して負けている筑波大学の遠藤宏美選手と対戦。「今まで教わって

きたことを出し切れば絶対に負けない」と思って試合に臨み、一本勝ちで優勝することができました。

大学院卒業半年前の今年4月には市内の鑑建築設計事務所<sup>たち</sup>に就職を決めました。鹿屋に残ったのは

練習環境の良さと小山田監督の目の前で世界大会で優勝して恩返し

をしたという思いがあったからです。9月に卒業するまでの半年間

は、仕事と学業、練習できつかったですが、8月に行われた全日本

実業柔道個人選手権大会で優勝することができました。

現在は会社が運営する鹿屋体育

大学女子柔道部の寮の管理人として仕事をしながら練習に励んでいます。平日は朝5時30分に起きて

部員の朝食を作り、午後は女子柔道部に加え、男子柔道部と体操部

の部員の夕食を作ってから練習をします。大変なことも将来必ず役に

立つと思つて頑張っています。

将来の夢は世界選手権と東京オリンピックに出場することですが、

そのためにはまず関東などの大企業の選手に勝たなければなりません。ただ鹿屋に残ると決めた以上

は、地方でもやればできることを証明したいです。これからも持

前の負けん気の強さで、世界の頂点を目指します。